

学校における生成AIの利用について



国の調査結果※では、小学校4年生以上で8割程度の児童生徒が、調べ物や文章作成等に生成AIを使用している結果が示され、生成AIの利用は、既に子供たちの間に広がっている状況と言えます。こうした中、次の学習指導要領においては、小学校からAIを使ったり、その仕組みを学んだりすることが学習内容に位置付けられる予定です。

生成AIは、考えを深め、学びを広げる便利な道具である一方で、誤った情報を示すことがあります。また、個人情報や著作権の取扱い、AIに考えることを任せすぎて自分で考える機会が減ることにも注意が必要です。

こうした状況を踏まえ、戸田市では、すべての子供たちが生成AIについて学ぶ機会を設けながら、その特性や限界を理解して適切に活用する力と、自ら考え、確かめ、判断し、自分の言葉で伝える力を育てていきます。

※総務省「青少年のネット・リテラシー指標調査」(2026年4月)

事前学習を土台とした利用の考え方



事前学習

生成AIのしくみや特性、限界、情報の確かめ方、安全な使い方等をすべての学年で発達の段階に応じて学びます。

主な学習内容

■AIは間違えることがある(情報を確かめる)

事実かどうかを自分でも確かめ、必要に応じて出典を確認する

■個人情報は入力しない

自分や他人の情報を絶対に入力しない

■著作権などの権利を尊重する

引用のルールを守り、他人の権利を侵害しない

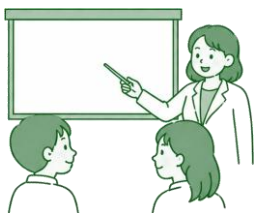
■まず、自分で考える・AIに判断を任せない

AIを答えを出す道具として使用しない。自分の考えを深めるための道具として利用する

■悩みや困りごとはAIではなく人へ

家族や先生など、信頼できる人に相談する

基本的な利用場面



先生が生成AIを使った例を示したり、グループで一緒に使ったりしながら、自分の考えと生成AIの出した回答を比べ、考えを深めたり、別の資料で確かめたりします。特性や限界、注意点への理解を深めます。

小学校5年生以上では



学習の目的や課題の条件に応じて、先生が示した条件のもとで、一人で生成AIを利用することもあります。

利用の分類

※市のアカウントは、入力内容を学習しない設定にしています

生成AIサービス(小5以上で利用可)



Gemini



Gemini Notebook

生成AI機能を含むアプリ・検索(全学年で利用可)



Chrome検索 (AIモード)



Canva



ジャストスマイル 等

利用のイメージ

※裏面に具体的な授業での利用例を掲載しています



評価の考え方

成果物だけでなく、考えた過程を大切にします

生成AIを使う学習における評価は、成果物のみをもって行いません。はじめの自分の考え、AIへの問い、回答の確かめ方、最後の自分の言葉での説明などの学習過程を確認して評価をします。

家庭での自主的な利用について



学校では、事前学習において学齢に応じた内容を学習します。「主な学習内容」に示す事柄を参考に、御家庭で自主的に生成AIを使われている場合も、お子様と話し合ってルールを決めましょう。

※ 御家庭で使用する生成AIを指定するものではありません。御家庭においては、利用するサービスの利用規約等の確認が必要です。



戸田市教育委員会

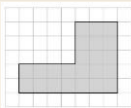
【参考】授業における活用イメージ

発達段階や学習の目的に応じて活用します。以下はその活用イメージの一例です。

比較対象としての活用

教師が全体の場で利用する場合(全学年)

例:小4算数
「複合図形の求積」



図形の分け方や組み合わせ方に着目し、面積の求め方を説明する学習です。友達の考えなど比べる中で、必要に応じてAIが示した求め方も比較材料とし、自分の考えを広げたり確かめたりします。



1 自分の方法で面積を求める

まずは1人で面積の求め方を考えます

2 クラス全体で考えを交流し、必要に応じてAIが示した求め方と比べる

全体で考えを出し合う中で、必要に応じて先生がAIの考えも提示します。児童は、自分の考えと同じ点や違う点を比べ、考えを深めます。

3 求積方法を整理する

自分の考えを見直すなど、よりよい求積方法を整理してまとめます

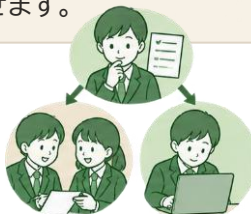
友達の考えだけで十分に比較・検討できる場合は、AIは使いません。AIを使う場合は、考えを比較するための一つとして扱う活用例です。

考えを深める支援ツールとしての活用

児童生徒が個別に利用する場合(小5以上)

例:中1国語
「根拠を明確にして意見文を書く」

主張と根拠の関係を明確にし、読み手に伝わる文章にする学習です。AIを使う場合も、AIに文章を書かせず、**読み手の立場から問い返し役割**だけをもたせます。



1 自分で下書きを書く

自分の主張と根拠を整理します

2 自分に合った見直し方を選ぶ

自分で見直す

友達と読み合う

必要に応じてAIの問い返しを使う

3 自分の言葉で書き直す

必要な箇所を自分で修正し、文章を完成させます。

先生がAIへの指示をあらかじめ設定し、子供の考えを引き出したり広げたりする



AIの
回答例

「この文章で、あなたが一番伝えたいことは何ですか」
「その考えにつながった出来事や経験を、もう少し教えてください」
「反対の立場の人は、どのような疑問を持ちそうですか」

生徒が自分にあった見直し方を選ぶ際の選択肢の一つとしての活用例です。

このような使い方をします

○思考を深める・支援する活用

○ 生徒は考え直すための質問を受け、自分で文章を修正する

このような使い方はしません

×思考を代替する活用

× 生徒がAIに意見文全体を書き直させる

どの学年でも
共通すること

生成AIを使うこと自体が目的ではありません。学習目標の達成に向けて、子供自身の思考を支えるために活用します。